国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
平成30年度契約監視委員会（第2回）議事録

1. 日 時 平成30年10月5日（金） 13：30～16：20
2. 場 所 農研機構 特別会議室
3. 出席者 高橋委員長、國井委員、渡邊委員
中根委員、青田委員、柏原委員

4. 議 題

（1）農研機構からの報告・提案

- ① 前回委員会での要請に対する報告
- ② 随意契約、一者応札・応募の点検数量について

（2）平成30年度第1四半期に実施した契約案件の点検

- ① 競争性のない随意契約（14件）（平成30年4月～平成30年6月）
- ② 一者応札・応募案件（48件）（平成30年4月～平成30年6月）

（3）その他

5. 議事概要

上記議題について事務局からの説明後、点検が行われた。主な内容は以下の通りであった。

（1）農研機構からの報告・提案

- ① 前回委員会での要請に対する報告
・特になしの旨報告した。

（2）平成30年度第1四半期に実施した契約案件の点検

① 競争性のない随意契約

- ・競争性のない随意契約について点検が行われ、外貨建での契約について、為替予約による契約の方が執行上もよいのではないかとの意見があった。
- ・点検の結果、新規案件については今後一般競争に付すべきとの意見はなかった。

② 一者応札・応募案件

- ・一者応札・一者応募に関して入札方法、不参加者へのアンケート調査、予定価格の積算などに関し点検が行われた。
- ・点検の結果、労働者派遣業務に関し、求めるスキルを応札者が容易に判断できるよう仕様書へ明確に記載するよう要請があった。

そのほか、試薬等の単価契約において、年度ごとに業者が違う案件の場合は、過去の実績を考慮した予定価格の積算を吟味すべきとの意見があった。また、一者応札となった原因追求としてメーカーと販売者間の資本関係、役員派遣、事業上の重要な契約の有無を調査する必要があるとの意見があった。

以 上